

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



宿題に取り組む子どもたち

活動名	放課後学習支援
実施箇所名	東小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>学校支援地域本部の新しい試みとして、放課後学習支援を実施した。</p> <p>宿題や自分でやりたい学習を行い、それをボランティアが見てくれる。計算カードのタイムを計ってあげたり、本読みを聞いてあげたりした。</p> <p>また、宿題等が終わった子は、昔の遊びや、ボール遊びなど、さまざまな遊びにも取り組める場を設定している。</p> <p>同学年同士や、異学年の関わり、また保護者とはちがう大人との関わりを通して、さまざまなふれあいの機会としている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題等も、友だちと一緒にいたり、親とは違う大人に見てもらったりすることで、子どもたちは集中して学習に取り組むことができていた。 ・放課後、家に帰っても誰もいない家庭にとっては、居場所づくりとなる。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の時間帯（13:30～16:00頃）であるため、ボランティアの人数を確保するのが難しい。 ・下校の安全等を考え、保護者に通知を出して、毎回、参加児童を募集しているが、参加児童の把握や名簿の作成に時間を要する。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>現在2回ほど実施したが、各回、参加ボランティアは10名程度。参加児童は、60名ほどである。帰りが下校時刻ぎりぎりとなるため、同じ方向の子ども同士でまとまって帰るよう呼びかけている。</p>

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	○
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



1年生の放課後学習の様子

活動名	放課後学習支援
実施箇所名	西小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>学校支援地域本部の学校支援活動の一環として、低学年は水曜日、高学年は月曜日の週1日ずつ、1時間の放課後学習を行っている。低学年、高学年ともに年間21回を計画した。</p> <p>主に宿題に取り組むが、わからないところはボランティアの方にサポートしてもらう。時間があればプリント学習や読書に取り組む。補習ではなく、あくまでも学習のサポートを目的としている。がんばりカードを作成し、参加した児童のカードにシールを貼り、最終の回にはがんばり賞の賞状を渡す。</p> <p>今年度は夏季休業中の学習支援も行った。低学年、高学年1日ずつ計画していたが、高学年は、天候の関係で中止になった。普段より長い2時間、主に学校からの宿題に取り組んだ。暑い時期なので冷房のある会議室で行った。登下校の安全については保護者が責任をもつ事を条件に、普段の約半数が参加した。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な取り組みがみられた。学習内容のつまづきに対して、ボランティアの方の適切なサポートがなされた。 ・地域に住む退職教員等によるボランティアなので、地域の学校に対する支援、協力の気持ちが伝わり、たいへん心強い。 ・児童が、地域の方とコミュニケーションをとるきっかけになっている。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する児童数が多いのに対して、ボランティアの人数が不足している。 ・宿題に取り組む事が主だが、早く終わった児童が取り組むプリント等を学校で準備する必要がある。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加児童は低学年41人、高学年は16人。 ・登録ボランティア数は、18人。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



夕飯作りに挑戦

活動名	「おやじと遊ぼう」 & 「学校に泊まろう」
実施箇所名	南小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>親子のふれあいと集団生活の規律、子ども達の防災への意識と災害時の対応力を高めることを目的に、「おやじと遊ぼう」「学校に泊まろう」を夏休み中に企画し、参加希望者を募り、宿泊訓練や炊き出し訓練等を行った。</p> <p>子ども達が大人と共に簡単な調理実習等を行い、飯盒や鍋等による自炊の仕方を学んだ。また、テントや寝袋等、災害時の宿泊に用いる様々な用具について学び、実際に体育館、運動場の隅等を用い、宿泊を計画した。本年度は悪天候の影響により、安全上の配慮から、一部変更で実施したものの、参加者の子ども達は貴重な体験を積むことができていた。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は調理実習や宿泊の体験から、日頃の自分たちの恵まれた生活を振り返るとともに、防災への意識を高めることができた。 ・子供会が消失する等、地域間の関わりが薄れていく中、子どもも大人も新たな出会いや人との関わりを得ることができた。 ・学校を身近にとらえる人が増え、学校の呼びかけや支援ボランティア活動への参加に意識を傾ける人が増えた。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全上の配慮や人数の把握等、事前に何度も綿密な打ち合わせが必要になっている。準備も大がかりになっている。夏休み期間での実施のため、参加者が限られることや天候によって実施内容が左右されることも課題である。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの数は時間帯にもよるが、のべ30人程度。児童は200人ほどの参加。2月には、おやじの会主催で、「もちつき」も計画されている。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



交差点での登校指導

活動名	登下校見守り・交通指導ボランティア活動
実施箇所名	北小学校区内
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>北小学校区は、車・自転車・歩行者の交通量が多いので、児童の登校には、常に危険が伴っています。そこで、北小学校支援地域本部が、保護者と校区内の自治会に交通指導ボランティアの募集をしました。すると、文教町や大宮町の保護者と、自治会役員の方がこれに応じてくださり、朝の登校指導がスタートしました。ボランティアの方には、防犯パトロールベストと、横断旗をお渡ししました。</p> <p>また、壱町田で不審者情報が数回続いたときには、壱町田在住の保護者の方が、下校時の防犯見守りパトロールを申し出てくださいました。この方には、防犯パトロールベストの他、車に取り付けるマグネットをお渡ししました。</p> <p>学校支援地域本部が中核となり、保護者と地域住民のボランティアが、子どもたちの安全を見守っています。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・危険が伴う交差点にボランティアが立ち、交通指導・登校指導を行うことで、歩行する児童の、交通安全意識が高まりました。 ・また、通行する車や自転車も注意してくれるようになってくれたこともあってか、本年度、児童登校中の交通事故数はゼロです。 ・壱町田の不審者情報は、パトロール開始後、再発がなくなりました。
課題等	北小学校区内には、危険が伴う交差点が何カ所もあります。交通事故を未然に防ぐためには、現在登校指導を行っている交差点以外の交差点でも指導を行うと効果的です。ボランティアの輪を広げていきたいです。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	文教町で4～5名、大宮町で2～3名、壱町田で2～3名のボランティアが活動しています。内訳は、保護者が3～4名、地域の方が5～6名です。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



電子黒板を使つての読み聞かせ

活動名	朝の読み聞かせ
実施箇所名	北小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>北小学校では、伝統的に、保護者による読み聞かせボランティア「ちちんぷい」が、朝の読み聞かせ活動を行ってきました。このたび、北小学校支援地域本部の発足に併せて、保護者及び地域住民に対して、ボランティアメンバーの追加募集を行いました。現在は、応募してくださった保護者4名、地域住民3名を加え、総勢34名で活動しています。</p> <p>本年度は、「電子黒板を使つての読み聞かせ」にも、挑戦しました。挿絵を大きく映し出すことができるので、子ども達からは、「見やすく、分かりやすかった。」と、好評でした。</p>
活動の成果	<p>保護者だけで行っていた活動を、地域住民にも広げたことで、今後のボランティア不足に対応していける目処が立ちました。参加してくださった地域住民の方も、やりがいを持って参加してくださっています。</p>
課題等	<p>地域住民の方を交えての打合せを設定する際の、連絡・調整に難しさがあります。会合をできるだけ少なくして負担を軽減しつつ、意思の疎通を図っていきたいです。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>参加ボランティア数は、34名です。参加した子どもの数は、全校児童723名です。</p>

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



芝生広場の草取り

活動名	草取り・環境整備ボランティア
実施箇所名	北小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>毎月、第2金曜日の9:00～10:30に、活動しています。春から夏にかけては、正門から芝生広場までの草取りを行いました。秋から冬にかけては、花壇に花の苗を植え付けたり、ポット苗を大きな鉢に植え替えたりする作業を行いました。</p> <p>従来、北幼稚園で行われていた草取りボランティア団体を母体として、学校支援地域本部がボランティアを募集し、活動を開始しました。</p>
活動の成果	<p>春から夏にかけて、植え込みや芝生広場に雑草が目立っていましたが、ボランティアの活躍により、整備された状態が保たれました。秋から冬にかけては、パンジー、テイジー等の花苗の植栽により、花壇が華やかに彩られました。</p>
課題等	<p>本年度活動を開始したばかりなので、1年間の活動見通しが十分でない面がありました。今後は、計画的に活動を進めていきたいです。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>保護者5名、地域の方2名、教職員3名で活動しています。</p>

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



4年生社会科見学の引率

活動名	校外学習における見守り活動
実施箇所名	錦田小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>毎年、各学年が地域に出かけ、学習を進める活動が計画されている。本校では、各学年3学級のため、引率者は各学級の担当3名と校内体制を整えもう1～2名を当てることで計4～5名としている。しかしながら、学習する場所は、校内ではなく、市内の広範囲にわたり、児童が安全に学習するためには、引率者数不足が課題であった。そこで、錦田小学校支援地域本部（錦田小PTCA）に相談し、児童の登下校を見守る錦田小スクールガードの方3名が協力することになった。（3年生：7月、4年生：10月、2回）。</p> <p>3年生は、市内施設に路線バスに乗って行き来した。2台に別れるため、各バスに4名ずつ乗り、引率することができた。4年生では、市内施設見学後、電車に乗って学校に戻る学習をグループ学習で取り組んだ。児童の安全を確認する要所や危険箇所に立っていただいた。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全を確保するための活動を、学校の引率者とボランティアが共有することにより、児童の安全だけでなく、学習の質も向上することができた。 ・普段のスクールガード活動における児童とのかかわりから、自然にボランティアと児童のかかわりがなされていた。さらに地域学習の内容に対しても児童への支援が行われていた。 ・これらの活動を契機に、他学年からも協力依頼も見られるようになった。
課題等	今年度は、2回の活動であったが、次年度に向けて増加する傾向にある。ボランティアの確保が課題となる。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加ボランティアは各3人。 児童は3年生91人、4年生101人。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



放課後学習

活動名	放課後学習支援
実施箇所名	徳倉小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>学習の分岐点といわれる中学年の基礎学力を定着させていくために、可能な範囲で学習の場を提供し、学力向上を図ることをねらいとしている。本年度は3年生を対象に、1年生から3年生の算数の基礎基本となる項目を中心に行った。</p> <p>学習方法は、基礎学習プリントを用意し、学校支援地域本部が依頼した外部人材（大学生を含む）から、指導・支援等をうけた。</p> <p>大学生のボランティア、地域のボランティアの6名が、主旨に賛同する15名のうち、毎回2～3名を固定して指導するように計画した。そのことにより、児童がボランティアの先生と安心して教えてもらえるようにした。学習プリントを10枚ほど用意し、自分のペースで進められるようにした。また、一斉に開始し、終了するようにしており、放課後学習のリーダーの方から毎回確認をして学習を進めている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の出席率はほぼ100%であり、毎回楽しみにしている。また、同じ先生に教えてもらえることにより、交流もでき、和やかな中で進められている。 ・字を丁寧に書く、定規を引いて計算するなど、学習内容の指導だけでなく、学習の基礎となる部分も指導していただいている。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が同じプリントで始めるので、競争になりがちである。そのため、字が雑になる児童がいる。 ・プリントの準備、子どもの見取りなど、学校の負担になっている。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加ボランティアは各回6人程度。児童は3年生15人。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



ブロッコリー苗の植え付け

活動名	地域の特性を生かした農事体験活動
実施箇所名	坂小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>坂小学校では以前より地域の方から畑を借り、様々な農事体験に取り組んでいる。今年度も4月のスイカ苗植え付けとトウモロコシの種まきに始まり、5月のサツマイモ植え付け、6月のジャガイモ収穫、7月からはスイカとトウモロコシの収穫、冬はダイコン及びブロッコリーの収穫と、年間を通して活動している。収穫した野菜は販売活動とともに給食の材料にも使われている。</p> <p>スイカの販売は、昼休みに高学年を中心にして保護者や地域の方に買っていただき、その売り上げの一部で児童が希望していた鯉を買い、校内の池に放流した。また、ここで残った売上金と他の野菜の売上金は、今年度1月に行う自然教室（4、5年生が参加する福島県猪苗代町立翁島小学校との交流活動）の交通費の一部に当てた。</p> <p>これらの活動には、坂小学校支援地域本部、坂地区活性化協議会の方々を中心に、PTAの協力も得て行っている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・坂地区の特色を生かした活動であり、地域の方々、保護者と連携した教育活動の場となっている。 ・キャリア教育を視野に入れ、野菜を育てて収穫するだけでなく、目的を持って販売活動まで行うことができている。 ・幼稚園児も一部の活動に参加することで、幼小連携活動の一つとなっている。
課題等	農事体験活動ということで、作業当日だけでなく畑の耕耘作業などの事前準備がある。その際のボランティア参加人数などの調整が必要となっている。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	本校は全校児童82名の小規模校である。参加ボランティアは作業内容によって人数が変わるが、多いときで8名ほど参加している。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



活動名	5年生家庭科 ミシンの使い方
実施箇所名	佐野小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>5年生の家庭科の授業で、「ミシンの使い方」の学習を行った。ミシンの実習は、児童にとって興味関心が高く、意欲的に行う活動の一つである。</p> <p>実習時間に児童の興味関心を維持しながら、より効果的に実習するために、さのっ子応援隊の皆さんに、ボランティアで支援をお願いした。児童は、適切なタイミングで個別に支援をしてもらい、意欲的に実習を進めることができる。ミシンの上糸と下糸のかけ方から縫い方、糸の始末の仕方、片付け方など、授業者が一斉指導を行った後、ボランティアの方が、個別に見守ったり支援を行うことで、より効果的な学習が期待される。また、ボランティアの方との交流を通して、児童と地域の方との距離が縮まり、児童にとって、大変有意義な時間となった。</p>
活動の成果	「ミシンの使い方」の基本部分で、適切な支援を受けながら、児童が活動することで、学習内容の定着が見られた。その後の実習では、エプロンづくりに取り組んだが、基本の使い方がマスターできているので、スムーズに学習内容を進める児童の姿が見られた。
課題等	ボランティアと指導者との事前打ち合わせを確保することが難しい。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加ボランティア6名程度。児童は77名。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



花壇の土作りをしている花壇ボランティアの皆様

活動名	学校花壇サポート
実施箇所名	中郷小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>よい環境の中でよい教育は生まれる。環境整備は教育の充実を図る上で欠かせないものである。</p> <p>本校では、園芸委員会を中心に学校花壇の充実に努めている。これまでは担当教員が試行錯誤の中で児童を指導し、花壇整備を行ってきたが、学校支援地域本部が立ち上がってからは、適切なアドバイスをいただいたり、作業を手伝ってもらえたりするようになった。今年度は、土作りの段階からボランティアに入ってもらった。よい土と、日頃の子どもたちの水やりで、苗の生長がよく、花壇の花に勢いがあった。日頃、子どもや教師ができないことをお手伝いいただけるので、非常に助かっている。</p>
活動の成果	<p>8月末に応募したFBC(フラワー・ブラボー・コンクール)において、優秀賞「中部善意銀行賞」を受賞した。</p> <p>園芸委員の子どもたちが日常活動で「苗植え」「水やり」「草取り」を行い、「土づくり」や「種まき」は、ボランティアに協力してもらった。学校・地域が一丸になって取り組んだ成果だった。</p>
課題等	<p>土日の水やり等、日常の活動をボランティアにお願いしたいが、ボランティアの方の都合もある。土日、グラウンドを利用している少年野球団に依頼している。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>ボランティアの数は7人程度、園芸委員の数は25人。</p>

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	○
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



宿題や自主学習を放課後に

活動名	放課後学習支援活動「かわせみ教室」
実施箇所名	沢地小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>毎週、授業が5時間の日の放課後に、年度始めに参加登録した子どもたちを、低学年（月・水）、高学年（月・木）に分けて学習支援に取り組み時間を設けている。</p> <p>学習内容は、その日の宿題や自主学習で、「家では落ち着いて取り組めない」「友達と一緒にの方が刺激になってはかどる」といった子どもたちが参加している。年度始めに、この活動の趣旨を理解し、児童と保護者双方が参加を希望する者に限定している。</p> <p>本校の学校支援地域本部は、活動内容によって、「学習活動支援」・「校内環境整備」、そして「放課後学習支援」の3つに分けられている。上述の活動は、その中の「放課後学習支援」を担当する方々が支援にあたっている。</p> <p>支援については、やり終わった宿題に間違いが無いか確認したり、難しい課題に対してヒントを与えたり、親代わりに音読を聞いてもらったりすることに絞られている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と触れ合う場が設けられる中で、子どもたちの、この方々への信頼が厚くなりつつある。 ・学校で宿題をやり終えてしまうことで、家で親と触れ合う時間が確保された子もいるようだ。 ・この活動を通して、子どもたちとの触れ合いに興味を持ち、「学習活動支援」として校外学習での引率補助に加わってくれる方が現れた。
課題等	支援の方々が教師では無いために甘えが生じ、私語や出歩きを注意されても素直に従わない子も見られるようである。また、中には、特別な支援を要する子も参加しているため、その子への対処の仕方が難しい。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	16人の方々が、低学年・高学年の3つの曜日に分かれ、6グループで活動している。児童数は、低学年（2・3年）が25人、高学年（4～6年）が18人である。1年生については、下校時刻が遅くなると心配なので応募していない。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



地域の方からいただいた野菜を販売

活動名	P T A バザーへの協力
実施箇所名	向山小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>向山小では、年に1回、P T A 厚生部が中心となってバザーを実施している。しかし、ここ数年は集まる物も減少し、収益も落ちてきていた。</p> <p>そこで、学校支援地域本部が中心となり、厚生部と連携をとりながらバザーを盛り上げるための工夫について考えた。</p> <p>その1つめとして、学校支援地域本部も物品集めや販売に協力した。各地区に働きかけて物品を集めたり、農家のお宅に野菜や花の苗などを提供していただいたりした。当日はコーナーを1つ開設し、直接販売も担当した。</p> <p>2つめは、多くの人に当日、来ていただくために、運動場を駐車場として一部開放することを計画した。そのためには人手がいるため、「おやじの会」に働きかけ、連携して駐車場の整備に当たった。</p>
活動の成果	品数が豊富になるとともに、来客数もかなり増えた。バザーが大変盛り上がることで、増収にもつながった。
課題等	今年度は、農家等に顔が広く中心になって動いて下さる方がいたので、新鮮野菜等が豊富に集まりバザーも盛り上がった。しかし、来年度も同じ体制を維持していくことができるかどうかが課題である。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	P T A 厚生部・本部役員と連携しながら、学校支援地域本部（10名）・おやじの会（6名）が参加した。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



e ライブラリで学習する児童

活動名	放課後学習支援
実施箇所名	北上小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>授業と家庭学習とをつなぐ試みとして、パソコン室にインストールされているeライブラリー（インターネット上の問題練習サイト）を活用し、毎週金曜日、午後3時～4時に放課後学習支援教室を開いた。</p> <p>対象は、やり方がよく身についていなかったり、練習量が足りないことで正確な解答にたどりつかなかったりする子どもたちとし、下記のように実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定員は40名(3,4,5,6年生 各10名)とした。希望者が多数であったため、調整を行った。 ○ 終了時刻4時とした。冬場は、日没までの時間があまりないので、帰宅の安全確保を参加児童の保護者に依頼した。 ○ 運営スタッフとして学校支援地域本部のボランティアが5名ついた。都合のつくボランティアが指導にあたった。ボランティアの都合がつかない場合、中止とした。
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員がボランティアと共に活動し、ねらいを共有することにより、学習の質を高めることができた。 ・学校支援地域本部の活動を拡充することができた。
課題等	・参加している児童が学習に飽きてしまった場合など、ボランティアだけでは、eライブラリー以外の活動を用意することができない。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	ボランティア…5名 参加児童数…毎回40名 実施回数…12回

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



活動名	放課後チャレンジ教室
実施箇所名	山田小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>学校支援地域本部の取組として、放課後チャレンジ教室(放課後の補充学習)を実施した。先生(ボランティア)として子どもたちの学習指導をしているのは、地域の回覧板で募集を呼びかけた。実際に、9名の方が担当。</p> <p>児童への呼びかけは、3年生以上を対象に、「現在の学年の学習内容に不安を感じる」「基礎基本をしっかり身につけたい」などを基本として、保護者の同意を得て、申込みを受け付けた。実際には、3・4年生を中心に月曜日・木曜日に分かれて(月・木ともに参加している児童も含め)25名が参加している。</p> <p>放課後学習以外に、夏休み明けを前に「夏休み宿題お助け隊」を行った。夏休みの宿題で困っているところやわからないところを学校の会議室で2日間ボランティアが指導した。</p>
活動の成果	放課後チャレンジ教室に参加している子どもたちは意欲的に学習に取り組んでいる。保護者もボランティアさんに感謝をしている。漢字や計算の基礎基本の習得を目的としている点で成果が上がっている。
課題等	3年生から6年生を対象に募集したが、3・4年生はたいへん意欲的であるが、5・6年生は個人差が大きく難しい面があると感じている。学級担任と情報交換する必要があると思っているが、なかなか時間設定ができないままになっている。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	放課後チャレンジ教室参加児童 25人 放課後学習支援ボランティア 9人

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



ビオトープ内の小屋撤去

活動名	ビオトープ環境整備
実施箇所名	長伏小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>中庭スペースに設置されている「ビオトープ」の環境整備作業を実施。例年PTAの環境整備時にも、草取りや樹木伐採等行っていたが、高所や古くなった建造物には作業難易度が高く手が付けられない状態が続いていた。</p> <p>今年度は学校支援地域本部の呼びかけにより長伏小学校おやじの会、PTA、自治会、NPO等に協力いただき、足場を組んでの高枝の剪定、古くなった小屋や標示物の撤去、レイアウトの変更等大々的に作業を実施した。</p> <p>多くの男性の方の参加があり、予定していた作業時間よりも大幅に削減できた。</p>
活動の成果	<p>中庭という立地条件の難しさから、作業車等が入れず、整備作業の懸念事項となっていたが、学校支援地域本部の呼びかけにより機動力を生かした活動を行うことができた。</p> <p>地域の方やNPOより資材や機器、ノウハウを提供いただけたからこそできた整備作業であった。</p>
課題等	<p>関係機関の連携調整、資材や機器、人員確保が難しい。廃材や大きな石の処分が難しい。現在も一部片付かないままの状態である。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>参加ボランティアは約80名、子どもたちの参加は見込んでいなかったが少年団や個人的に自主参加があり20名ほどの参加があった。</p>

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



（学校支援地域本部会合）

活動名	職場体験・職業講話
実施箇所名	錦田中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>2年生でキャリア教育の一環として職場体験を実施している。進路そして将来を考えるためのきっかけとする大事な行事である。三島市の夢ワークが紹介する職場だけでは、2年生全生徒の半分しか受け入れ先がない。そこで、学校支援地域本部の方の力を借り、残り半分の生徒を受け入れてくれる事業所の開拓を依頼している。受け入れ先は、「生徒が体験してみたいと希望している事業所」、「学校と地域のつながりを深めることができるように学区内にある事業所」という条件に合った事業所を、学校支援地域本部の方に探していただいた。学校としては、担当が窓口となり依頼していただいた事業所をまとめ生徒に割り振ったり、確認の連絡したりするだけであった。</p> <p>1年生もキャリア教育の一環で職業講話を実施している。2年生で行う職場体験へとつながるものである。生徒から話を聞いてみたい・興味のある職業調査を事前に実施した。今年度は、21種の職業の方を講師として招くことになった。学校支援地域本部の方には、生徒のアンケート結果を基に、講師を探し事前に交渉まで行っていただいた。</p> <p>どちらも学校支援地域本部の会合を通して実施学年の意向を伝え、生徒に会った体験先の事業所や講師を会合の中で検討している。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部の方の努力で、生徒が希望する体験場所や講師が見つかり、充実した職場体験や職業講話を実施することができた。 ・依頼をするときに事業所の声（あいさつをしっかりとする、大きな声で返事をするなど）を聞いてきてくれおかげで、生徒の事前指導に生かすことができた。 ・学校としては事業所や講師を見つける手間が省け、その分生徒に対する事前指導に時間を割くことができた。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として早い段階で生徒の希望を集約し伝えることで、生徒の希望により合った事業所の開拓や講師の依頼ができる。 ・学校支援地域本部の方が一人で複数を担当する関係で、早めに実施計画書を作成し依頼する必要がある。
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	<p>1年生職業講話（生徒：171名、講師：21名） 2年生職場体験（体験場所：25事業所、参加生徒：75名）</p>

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



三島信用金庫(太田氏)の講話の様子

活動名	1年生 職業講話
実施箇所名	南中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>南中学校支援地域本部の主催で、1年生対象の職業講話を実施した。講師の方は、南中学校支援地域本部の皆様からの紹介で集まり、それぞれの職業について、仕事内容や思い等の講話を行った。職種は、「建築会社経営・CGデザイナー」「医師（泌尿器科）・ママサークル代表」「保育士」「消防士」「警察官」「エネルギー」「三島信用金庫」「薬剤師」「美容師」「看護師」「農業」であり、生徒がそれぞれ選んだ2名の方の講話を聞き、質疑応答等を実施していく方法をとった。講師は、それぞれの職種の中で、かなり活躍されている方々であった。また、生徒への話し方や接し方も適切で、生徒の視点で講話をしていたため、生徒は真剣に集中して講話に聞き入っていた。昨年度からの課題であった、1回の講話時間が短いという点について今年度は、講話時間を長く取る工夫をしたため、講師の方からは、話がしやすかったという意見が出ていた。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・この活動は、昨年度も実施していたが、今年度はさらに昨年度の課題を踏まえて実施したため、中学校と南中学校支援地域本部、講師の方々との連携がより深まった事業となった。 ・生徒にとって、地域の方々と触れあう場面は貴重な体験であるため、この事業を有効に活用でき、質の高い活動となったと考えている。
課題等	<p>今回出会った講師の方々とは今後も連携し、教育活動に関わっていただける機会を設けていく。事業実施について、講師の方の意見を十分に聞き、講師の方も充実感をもてる事業にしていくよう工夫していく。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>参加人数：講師12名、南中学校支援地域本部4名 参加生徒・教職員：185名</p>

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



1年生 富士山麓(幕岩)ハイキング

活動名	1年生宿泊訓練 富士山麓(幕岩)ハイキング 同行
実施箇所名	富士山御殿場口
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>「富士の麓で 絆を深め 生き抜く力を 身につけろ!」のスローガンのもと、本校1年生(190名)が富士山麓(幕岩)周辺のハイキングを行うにあたり、生徒の安全を確保するため、山登りの経験のある市民ボランティアを募った。</p> <p>三島山歩会とのつながりをもつ学校支援地域本部コーディネーターが実施日当日に同行可能なボランティアに依頼を掛け当日はコーディネーターを含めた4名のボランティアが生徒の安全確保のため同行することができた。</p> <p>生徒の体調不良や突発的な事故に対応できるよう事前にコースの待機場所を定め、対応の事前協議を行った。また、御殿場口駐車場と連絡が取れるようにトランシーバーを使用し随時連絡が取り合える状態を確保した。</p> <p>当日は天候も良く、生徒個々のペースにあわせたハイキングを実施することができた。</p>
活動の成果	<p>山登りの経験が豊富な方が同行してくれることにより、引率教員も安心して生徒の見守りを行うことができたと同時に引率教員の精神的な負担の軽減に繋がった。</p> <p>宿泊体験や遠足等での生徒の安全を確保する手立てとして、今までの取組に幅を持たせる活動プログラムを組み込むことができた。</p>
課題等	学校の日程とボランティアの日程の兼ね合いが課題である。また、教員との事前打ち合わせの時間を確保することも課題として挙げられる。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>三島山歩会 4名(含 コーディネーター)</p> <p>本校1年生 190名</p> <p>本校教員 9名</p>

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



放課後の学習に取り組む生徒たち

活動名	NGO活動（放課後学習支援）
実施箇所名	中郷中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもたちを育てていくために、中郷中学校では平成27年度に正式に学校支援地域本部の実行委員会が組織された。</p> <p>本校の学校支援地域本部は学習支援を主な活動としている。「基礎学力の補充が必要な生徒のための支援」を目的としており、「なかざとちゅう」「がくしゅうしえん」「おたすけたい」頭文字をとって「NGO活動」という愛称で親しまれている。</p> <p>活動内容は、前半の11月までは全学年の生徒を対象に、国・数・英の小テスト（サポートテスト）で合格をしなかった生徒への補充学習を、12月からは3年生を対象に受験に向けた支援として「基礎学力の補充」と「面接・作文練習」を行っている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着につながっている。（数学の計算力について、定期テスト等で成果を感じることができた。） ・ていねいに教えてくださるため、学力の低い子どもたちも学習意欲を持続することができている。 ・少人数の学習のため、質問をしたり、発表をしたり、普段の授業ではできない体験をすることができ、楽しく学習活動に取り組むことができた。
課題等	全21回を予定しているが、学年ごとに毎回3教科をローテーションしている。支援の間が大きく開いているため、学習の積み重ねがなかなかできていない。（忘れてしまっていることが多く、復習から入ることもある。）
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	支援ボランティアは国語3名、数学2名、英語3名で計8名。参加生徒数は、事前に行った小テストの結果によって異なるが、毎回約15～40名程度の生徒が学習活動に参加した。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



老人ホームでの「紙芝居」

活動名	
実施箇所名	北上中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>学校支援地域本部がコーディネートした「読み聞かせボランティア」「図書館ボランティア」によって、話を聞く力・話をイメージする力・読書への関心などを育てるため、「読み聞かせ」を、年間（学期に1回）。</p> <p>本年度は、読み聞かせだけでなく、「読み聞かせボランティア」「図書館ボランティア」が、紙芝居を制作する。制作は、本校の部活動「MC（マルチカルチャー）部」と共同して、「紙芝居」を制作し、「読み聞かせボランティア」が昼休みや放課後の図書館で紙芝居を披露し、集まった生徒と交流を行った。また、「読み聞かせボランティア」が地域の保育園・幼稚園で紙芝居を披露した。学校支援地域本部が支援してくれている学校行事「職場体験」では、幼稚園や小学校、老人ホームでの職場を選択した生徒たちが、この紙芝居を使い園児や児童に披露することで、活用した。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とボランティアが制作等の活動を行うことにより、地域と学校の関係を高めることができた。 ・部活動「MC（マルチカルチャー）部」との関係をつくることで、地域の方が学校と係わる場面がくれた。 ・この活動を契機に、「読み聞かせボランティア」と本校、そして地域の保育園、幼稚園との活動が広がり、その他の活動にも発展できることが感じられた。
課題等	ボランティアと生徒が共同する時間や場所等の調整が必要となる。学校支援地域本部がコーディネートするための事前の打合せを念入りに行う必要がある。しかし打合せの時間を設定しても集まれることが難しい。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	学校支援地域本部コーディネーターを中心に「読み聞かせボランティア」「図書館ボランティア」で「紙芝居」に関わったボランティアは14人程度。制作に関わった「MC（マルチカルチャー）部」は、30名程度。職場体験でも使用した。

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



夏期講習会で講師に質問する生徒

活動名	学校支援地域本部による夏期講習会		
実施箇所名	公民館・自治会館（梅名・安久・長伏・松本・御園・中郷文化プラザ）		
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>災害時に避難所となる地域の公民館の場所を知ること、地域の生徒は地域で育てることを目的として学校支援地域本部の主催で8月1日（月）～3日（水）の3日間、午前8時30分から9時30分の1時間の学習会を行った。</p> <p>夏期講習会は、各地域の学校地域支援本部の部員が責任者となった。また、地域の塾講師、教職経験者、本校を卒業した大学生や高校生が延べ64名が協力し、各地区に参加生徒の人数により各会場で2名～6名の講師を配置して運営した。</p> <p>夏期講習会は、地域の1年生～3年生の参加生徒が夏休みの宿題を持ち寄って学習を行い、わからないところを講師に質問する個別指導の形態で行われた。講師1名あたり、3名～5名程度の生徒の対応ということで、よりきめ細やかな指導ができる。</p> <p>夏期の大変暑い時期であり、会場はエアコンがかかっており、快適な環境の中で、仲間とともに学ぶことで学習への意欲の高まりも期待している。</p>		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none">・自治会長や町内会長などの地域住民の参加が見られ地域の方に本校の生徒のようすを知ってもらえた。・講師として本年度、次年度の教育実習生が参加したことで、実習生が本校生徒のようすを知ることができた。・講師の派遣について高校との連携を図ることができ、卒業生徒の有効的な活用ができた。・地域の子どもは地域で育てるという意識が高まった。		
課題等	<ul style="list-style-type: none">・8月初旬は、大学や高校での行事が集中するところであり、講師の召還が難しい。・夏期講習などがあり、3年生の参加者が少ない。・地域によって生徒数に大きな違いがあり、講習会に温度差が出る		
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	責任者、講師 参加生徒	延べ人数 延べ人数	70名 258名

市町名	三島市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



グラウンドの草刈り作業

活動名	草刈り作業
実施箇所名	山田中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>毎年、PTAの奉仕作業において草刈り作業をお願いしている。三島市が指定している日の実施でないため、刈り取った草の処理が難しい。そこで、学校支援地域本部のコーディネーターによって地域の園芸業者をお願いし、トラックもお借りして処分させていただいている。</p> <p>また、本年度、奉仕作業当日が雨天だったため、草刈り作業が実施できなかった。</p> <p>そこで、学校支援地域本部よりPTA等に声を掛けていただき、ボランティアを募集して草刈り作業を行った。</p> <p>当日は、ボランティアの他、部活動のない生徒も参加しての作業となり、予定していた草刈り作業が行えて、環境整備ができた。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草を整理することができ、生徒の活動環境を整備することができた。 ・学校支援地域本部の存在について、学校だよりやPTA運営委員会等の際に、その役割・活動について紹介しているが、その良さを再確認できる機会となった。
課題等	敷地が広いため、年に何回かの草刈りが必要である。多くのボランティアが集まれる日の設定が難しい。平日において、行っただけのボランティアを募集しているが、なかなか集まらない。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加ボランティアは、約20名であった。

市町名	富士宮市
-----	------

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



地域の方と花壇作り

活動名	花いっぱい为学校をめざして
実施箇所名	富士根南小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>「環境が人を育てる」という言葉のもと、季節の花で学校の花壇がいっぱいになるように年数回活動に取り組んでいる。花を植える前には土づくりを地域の方が中心となり行い、子供たちの作業がスムーズにいく配慮を頂いている。</p> <p>大規模校のため、学校花壇も多く、多くの人出が多くなるが、実施において様々な工夫をしている。参加する児童は、1年生と6年生のペアの時もあれば、自由参加の時もあり、たくさんの児童が、たくさんの地域の方々と触れ合う機会がある。</p> <p>花を植えた後も、子供たちが自分が植えた花を見に来たり、水やりをしにきたりするなど愛着をもって地域の方と植えた花に親しんでいる。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備の活動は、初めてボランティアに来る方にとっては非常に参加しやすく、以降の取り組みにも参加いただけるなど活動を広げていくきっかけとなった。 ・自分たちが植えた花が学校中に咲いている環境は、これからも学校をきれいにしようとする子供たちの心を育てることができる。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・天気に左右されることがあるため、日程や連絡を調整すること。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ボランティアの方は15名程度集まっていた。全校で1000人を超える学校だが、年数回の花植え作業を行うため、ほぼ全員が活動に取り組むことができる。

市町名	富士市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



計算プリントに取り組む児童

活動名	けやきの学校（放課後学習支援ボランティア）
実施箇所名	富士第二小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>児童の確かな学力の育成を図ることを目的に、平成27年度から市内の他の27校と一緒に実施を始めた。（週1回、年間40回）</p> <p>学習指導を行うボランティアは、地域住民、保護者、大学生、市へ直接応募された方など教育委員会が適当と認めた人が登録しており、市内で最も多い15名である。</p> <p>児童は、第3学年を対象とし、週に1回、授業と同じ45分程度の時間、国語や算数の学習に取り組んでいる。富士第二小学校では、習熟度別にクラス分けし、国語は漢字、算数は計算を中心に、プリントを使い基礎学力を定着できるよう支援をしている。前期は、4クラス15名程度の児童がいたが、後期からは対象指導を減らし、基礎・基本的な内容がわからないで困っている児童に、ボランティアが寄り添って指導を行っている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からは、「わからない所がわかるようになって楽しい」、「すぐに聞けてうれしい」と言った声が聞かれた。 ・教員からは、定着度テストの結果が底上げされており、継続して学習することの大切さを感じる、という感想が聞かれた。 ・参加するボランティアは、大変熱心で指導方法や児童理解への関心を高めている。
課題等	保護者の希望も強く参加児童が多い。また、参加児童の学力さもある。一方で、ボランティアがすべての活動日に参加できるわけではないため、いかに多くのボランティアを確保するか、が課題となっている。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加ボランティアは15名。前期では60名の児童が参加していたが、学力の高い児童は家で計画的に学習することを促し、けやきの学校を「卒業」させ、後期からは40名程度の児童へ丁寧な学習支援を行なっている。

市町名	裾野市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



稲刈りの話

活動名	米作り指導を軸とした環境整備活動
実施箇所名	向田小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>本校では、平成元年の開校以来、米作りを行っており、これが伝統となっている。地域の農家、青少年健全育成会、校区の民生・児童委員の方々が、ボランティアとして全面的に支援。田植えの場合、協力者が5年生に手植えの指導をしてくれる。機械を持ち込んで、機械植えも体験させてくれる。その後、雑草取り、稲刈り、脱穀、餅つき、お飾り作り、来年度の種もみを残す・・・と、翌年に続くところまで行う。併せて、学校支援地域本部事業の取り組みのメインイベントとしている「草刈りボランティア」を毎年実施している。地域に回覧板等で募集をかけ、本年度も30名近くの地域の方が参加され、米作りを行っている田んぼ周辺及び学校敷地の環境を整えていただいた。翌週のPTA奉仕作業につなぎ、さらに次の週の運動会を気持ちよく迎えたいというねらいもある。やりたい人が得意な作業をやるので、手際がよい。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の民生、児童委員の方々が多く参加されるので、子どもたちの実態を見ていただく場にもなる。 ・児童数が少なくなる中、多くの人の手が必要で、一緒に参加して下さるだけでもありがたい。 ・環境整備は、敷地の広い本校にとって時間的にも費用的にも非常に助かり、きれいになることで子どもたちが落ち着いた生活を送ることができる。
課題等	ボランティアの方々の高齢化が進む中、熱中症などのへの気遣いが必要。また、将来を見据えて、後継者の選定なども考えなければならない。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加ボランティアは、田植え、稲刈りでは、20人程度。児童は、5年生29名。環境整備は、30名程度。収穫した餅米を使つての会食という形で、感謝の意を伝えている。

市町名	東伊豆町
-----	------

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



青色防犯灯をつけた車両に乗る柿沼さんと児童

活動名	下校時の児童見守り隊
実施箇所名	熱川小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>不審者や交通事故から児童を守ることを目的に下校時の1、2年生を対象に実施している。</p> <p>現在は5名のボランティアが各方面を担当し、当然ながら地方ならではの民家の少ない場所などを通る際の不審者からの見守りもあるが、今では猿やイノシシの出没も多数あり注意をはらいながら実施している。</p> <p>また、これまでボランティアの自家用車を使用し、緊急車両的に1台が列の最後尾についたりしながら行う経路もあった。しかし、住民の中には逆に不審に思ったり、通行の妨げに感じる者もいた。</p> <p>そこで、今年度から防犯の講習を受け登録された車両にステッカー及び青色防犯灯を付けて実施している。</p>
活動の成果	<p>ステッカーや青色防犯灯の設置車を使用することにより、住民への活動の周知や理解はこれまで以上に得られている。</p> <p>また、通行車両への注意喚起や不審者出没の減にもつながっている。</p>
課題等	<p>青色防犯灯については講習を受けることや登録といったこともあるため、数は少なく、今後、この活動の輪が広がりこのような車両が増えれば、他の防犯にもつながっていくのではないかと。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>活動の概要の中でも記述したが、熱川小学校の1、2年生（約50名）を対象に、毎回、5名程度のボランティアで実施。</p>

市町名	松崎町
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



清掃時間の支援

活動名	松崎町学校支援本部
実施箇所名	松崎小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	地域の教育資格保有者に学校に入ってもらい、トイレの使い方や清掃の仕方、給食の準備・片づけの仕方、下校時の安全対策指導などの生活面の支援や授業中や休み時間の児童を見守りを行っている。
活動の成果	多様な成長段階の児童の指導を支援することで、個々の児童の成長段階に合わせたより細やかな指導を実現でき、児童の学校生活を安定・安全なものにできている。
課題等	児童の成長段階に合わせた指導支援ということで、教育指導に関する知識や経験を有する適任者が限られており、人材が不足している。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	コーディネーターを兼ねた参加ボランティアは6名で学校生活に不慣れな1年生37人を主に支援している。

市町名	函南町
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



夏期講座

活動名	夏期講座
実施箇所名	町内の32事業所
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業を活用し、日常の学習活動に不安を抱える生徒を対象とした学習教室を開催する。 ・本講座は数学の計算練習や英語の基本文型などを学習内容とし、可能な限り個人指導に近い形態で、基礎・基本の定着やつまづきの解消を図ることを目的としている。 ・講座の開催期間は6日間（台風で1日休講）で、その間応募した外部人材（学生、地域の方等）が生徒に教えている。
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期につながる補充学習に生徒が励んでいる。再度学習への意識を高めている生徒の姿が見られた。 ・講師の学生、地域の皆さんにお世話になったことが生徒にとって夏の思い出の一つになっている。 ・講師からは「中学生の様子が理解できた」、「夢をもっているようで安心した。応援したくなる子でした。」との意見がある。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・講師に事前に解答を教えてもらった方がやりやすいとの意見がみられる。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<ul style="list-style-type: none"> ・台風のため、1日間休講となり5日間実施した。ボランティア延べ150人、参加生徒数延べ150人。

市町名	清水町
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



浴衣の着付けに挑戦する生徒

活動名	和装のプロに学ぶ浴衣の着付け教室（家庭科学習支援）
実施箇所名	清水中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>家庭科の授業支援として和装のプロを招いた浴衣の着付け教室を実施している。浴衣を通し日本の和装文化を学んでいる。（年に1回）</p> <p>普段、馴染みのない浴衣の着付けを授業時間内に全ての生徒に指導することは、先生1人ではとても難しいが、町内在住の呉服店の店主らを講師に迎え、生徒が2人1組になり実際に着付けに取り組んだ。その他に着付けに堪能な地域ボランティア約10人の協力も得た。</p> <p>浴衣は同校のPTAが地域で不要になったものを集めるなどした。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターの調整により、専門家の講師だけでなく、実際に生徒の着付けを手伝うボランティアも地域とPTAの双方に依頼をし、また実習に使用する浴衣集めも同様に地域とPTAに募ったことにより、今事業に関わる参加者の輪が広がった。 ・この事業を実施する以前は、教師一人が着付けを実践し、生徒はその様子を見ているだけだったが、ボランティアの手助けにより、生徒一人一人が実際に着付けを体験できた。
課題等	<p>昨年度の活動を町HPで見て、新規のボランティアが1人増えた。地域ボランティアが高齢化していることもあり、今後も新たなボランティアの開拓が課題となる。</p>
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	<ul style="list-style-type: none"> ・町内在住の呉服店店主ら専門家は4人 ・着付けに堪能な地域ボランティアは10人程度 ・着付けでお世話になったボランティアの方々に対し、学校の文化祭で行われるお茶会に招待している。

市町名	長泉町
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



今年度開講した「空手」コース

活動名	町の名人となかよくなろう
実施箇所名	長泉町立南小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>地域の方との関わりをとおして、地域を愛する心をもつ子どもを育成すること、また、子どもたちが地域の愛情に育まれていることを実感すること。以上の二つを目標に、3年生の総合的な学習の中で、「町の名人となかよくなろう」という体験学習に取り組んだ。本校学校支援地域本部のコーディネーターに依頼をし、長泉町内を中心に、太極拳・折紙アート・手話・フラダンス・大正琴・空手の技術に堪能な方々をお招きし、技の説明を受け、練習を繰り返している。</p> <p>ただ練習するだけでなく、その「技」の歴史や町での取り組み、生涯学習につながる楽しさなどを、子どもに理解できる言葉で教えてくださる。子どもたちは、学校の授業では学べないことなので、活動に取り組む態度はいつも嬉々としたものであった。技術に関する子どもの質問に対しても、講師の方は懇切丁寧に答えてくださっている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、学校でふだん学べないことを、その道で長い経験を積んでこられた方々から、手取り足取り教えていただくことにより、新たな技を覚えたという喜びを感じた。 ・児童は、ボランティアとして何度も来校し丁寧に教えてくださる講師の方々と直にふれ合うことで、純粋に自分たちは地域で大切にされている存在だということを肌で感じている。
課題等	活動のスタート時、事前打合せの不足から練習が軌道に乗るまでに、ボランティアと学年教員との連携がスムーズでない時があった。しかし、回を重ねることで、その課題は解消されすばらしい活動になっていった。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	6講座あり、参加ボランティアは各回20人程度。全6回の講座があり、最終回は体育館での発表を行う。その発表会は、保護者参観可能で、多くの保護者が見学に来る。

市町名	小山町
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



ボランティアの説明を聞く児童たち

活動名	学校行事運営補助
実施箇所名	明倫小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>ウォークラリー形式で地域をグループごとに歩く遠足である。歩く道は、5つのチェックポイントを必ず通るようにグループごとに検討して、事前に決めてあった。</p> <p>ボランティアはチェックポイントに立ち、通るグループをチェックするだけでなく、地区の歴史をレクチャーしたり問題を出したりなど児童も交流した。</p> <p>チェックポイントにボランティアが立ったので、学校側は道路の安全面の方に留意することができたと思われる。また、ボランティアは児童とのやりとりの場面があったので、グループの通過チェックだけでなく楽しく過ごすことができたようである。</p>
活動の成果	<p>・ボランティアに参加する前は、児童とうまくやりとりができるか不安に思っていた方もいたが、終わったら、「楽しかった。」「機会があればまた参加したい。」との感想だった。</p> <p>・地区でボランティアと顔を合わせたら、児童から元気な声で挨拶をしてくれるようになったようである。</p>
課題等	<p>・遠足に地区の人に入ってもらおうということで、学校側は児童との交流の場を設定してくれた。ただボランティアがいただけでなく、児童に地区の協力者を意識づけてくれたが、計画が難しかったと思われる。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>・ボランティア 5人</p> <p>・児童 60人</p>

市町名	島田市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



LET'S 利き海苔・ダシ取り

活動名	二中コミュカフェ
実施箇所名	島田第二中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を身近に感じ、保護者が子育てにおける悩みや困っていること、愚痴などを話せる場として「二中コミュ・カフェ」を開催。 ・毎回、地域の人材を活用したプチ講座も同時に開催。 ・家庭教育支援員が、コミュカフェの企画・運営を担当。 ・参加者の呼びかけは、生徒を通じてチラシを配布。また学校のホームページ内でも開催のお知らせをしている。
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度より実施し、活動が定着した。 ・参加した保護者は家庭教育支援員とつながり、子育てへの相談などがスムーズできる関係がもてるようになった。 ・困り感をもった親や気になる親に対し、養護教諭がコミュカフェへの誘いかけを意図的に行うことで無理なく家庭教育支援員とつなげる事ができた。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が、固定化してきているため、学区内の小学6年生の保護者にも声かけを今後行なっていく。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>実施内容（平成28年度）</p> <p>1回 LET's 利き海苔・ダシ取り</p> <p>2回 MY座布団作り</p> <p>3回 パーツから作るオリジナルブレスレット</p> <p>4回 私の子育て</p> <p>5回 LET'Sねりきり</p> <p>6回 先生たちのつながるシート</p> <p>7回 給食試食 & 食育講座</p>

市町名	掛川市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



北中学校吹奏楽部による演奏

活動名	冀北学園のつどい
実施箇所名	北中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>冀北学園のつどいは、学園内全ての住民を対象として、学園のテーマ「ふるさとを愛し、未来に羽ばたく子」の育成のために地域総ぐるみで取り組むことを目指して、共通理解を図りながら学園化の意識を高める場として行っている。学園内の園児や児童生徒の代表や保護者及び地域住民が参加、年1回、11月の土曜日午前中に北中学校で実施している。</p> <p>冀北学園のメインコーディネーターが主体となって、企画運営している。主な内容は、冀北学園の活動報告、冀北の教え実践発表、音楽交流、冀北の教え五箇条唱和などである。多くの保護者や地域の方に参加いただけるように、内容を工夫している。本年度は、新たに冀北学園キャラクター「きほくま」の着ぐるみを作製して、各種イベントに利用しているが、今回の冀北学園のつどいにも登場し、つどいを大いに盛り上げた。</p>
活動の成果	冀北の教えにかかるといって実践発表の機会を作ることができた。参加者が年々増加しており、冀北学園の活動を地区住民に知らせるとともに、少しずつではあるが浸透させることができている。園児・児童・生徒の代表が、音楽を通じて交流することで身近な先輩の立派な姿を見ることができ、心豊かな人間づくりにつながっている。
課題等	様々な組織とのかかわりが増えてくるため、調整に時間がかかる。会場設営について、中学生が前日の放課後に行っているが、準備にも多くの方が関わるような手立てを考えていきたい。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	地域住民が約350人、児童生徒が約300人参加した。

市町名	藤枝市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



手縫い指導の様子

活動名	家庭科授業の補助 裁縫指導
実施箇所名	藤枝小学校 家庭科室
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>5年生の家庭科の授業において、裁縫の指導補助を実施。 サポーター(ボランティア)への依頼は、授業の手伝いをしてくれそうな人たちに直接依頼し、当日、5人のサポーターで授業をサポートした。 授業のサポートに際しては、事前に学校と日時や内容を相談し決定した。 授業内容は、基本の玉結び、玉止めなど裁縫学習の基礎で、先生の説明後、サポーターが、実際に糸と針を使い、子ども達にみせたり、一人一人に合わせた支援を行った。</p>
活動の成果	<p>サポーターにとって初めて接する児童であったが、児童1人1人に関わることで、細かい指導ができ、時間が経ち、内容がよくなると興味を持って真剣に取り組んでくれた。 30名の児童を対象とした実技指導は、1名の先生には負担が重く、先生の手助けとなり、サポーターにとっても、裁縫の知識を活かす良い場となった。</p>
課題等	学校側の予定とサポーターの予定が合わなく支援ができない場合もある。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	ボランティア数5名、参加児童5年生30名、

市町名	御前崎市
-----	------

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



着衣泳の指導を受ける児童

活動名	着衣泳に挑戦しよう
実施箇所名	市内全小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>本市は、3方が海に面している。そのため、海に親しむ機会を増やし、郷土の海に対して親しみや愛着を持つことをねらった活動の充実に努めている。本年度は、市内7校の全小学校でマリンスポーツ体験（カヌー・スタンドアップパドル・シュノーケリング等）を実施した。</p> <p>マリンスポーツ体験では海の楽しさだけでなく、海の恐さについても、本市マリンスポーツクラブの方に講話をいただいている。</p> <p>着衣泳は、それらの事業の一つとして、地元のサーファーの方たちが、保健体育の水泳の授業で指導をした。海に落ちて慌てず落ち着いて行動することや、溺れている人を助ける方法などについて丁寧に教えていただいた。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンスポーツ体験も行っているので、子どもたちにとって切実感のある体験となった。 ・ボランティアの方が、趣旨をよく理解し指導をしてくれたので、児童にとって大変分かり易い体験となった。
課題等	今年度は天候に恵まれ、予定どおりの日程で行うことができた。雨天の場合など延期されたときの対応が課題。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	市内全小学校の4～6年生。学年は、各校の希望によって実施。約200名。

市町名	菊川市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



陶芸クラブの様子

活動名	学校支援ボランティアによるクラブ活動の指導
実施箇所名	内田小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>内田小学校のクラブ活動では、開催される8クラブ全ての指導を学校支援ボランティアが担当している。回数としては、前期3回、後期3回の年間6回の活動が行われている。</p> <p>学校支援ボランティアは教員と違い異動がないため、同一の内容のクラブを長期間維持することができ、経験豊富な指導者による指導が可能となっている。また、他の学校ではあまり見られない剣詩舞クラブのような個性的なクラブも存在する。</p> <p>陶芸クラブについては、成型・加工した作品を市中央公民館所蔵の電気釜で焼く作業を学校支援地域本部事務局が担当している。</p>
活動の成果	地域の文化祭、地区センター祭りにおいてクラブ活動を発表する機会がボランティアを通じて設定されており、小学校がより地域に近づく、学校活動を地域に知ってもらう役割を担っている。
課題等	クラブの指導を担当するボランティアの高齢化が顕著である。一部クラブにおいてはボランティアから後継の講師の紹介を受けられたが、現行の多くのクラブの後継者の選定は課題となっている。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加ボランティアは15人。児童は約100人。

市町名	牧之原市
-----	------

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



ブリの三枚下ろしに挑戦する児童

活動名	地頭方の海を知ろう
実施箇所名	地頭方小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>地域を知り、地域に愛着を持つ子どもを育むことを目的に、講義2回、体験4回の全工程6回にわたり、地元の海に関する授業を実施した。講師は、地域のボランティアである。</p> <p>1回目は、「地元の海と魚に興味を持ってもらう」をねらいとし、海で釣れる魚の種類や環境を学び、釣竿や魚拓、講師の描いた魚の絵等を用いて授業を行った。</p> <p>親子での魚釣り体験を3回にわたり実施。天候の不順や潮の流れの関係で思うように釣れなかったが、それも経験となった。</p> <p>地元で釣れた魚を子どもたちで捌く料理教室。講師である地元の魚屋さんが、朝4時迄、学校の目の前の海で泳いでいた大きなブリを捌いて、三枚にする実演を披露してくれた。その後、親子で一匹ずつ魚を捌く体験をした。子ども達とお母さんは魚を捌くことが初めてで、魚屋さんのように上手いかず、剥き身のようになってしまったが、とても楽しそうであった。</p> <p>最終回はまとめの授業。「釣りの授業は大成功！！」、地元の海は釣りにむいていることや、釣れる魚、危険な魚等々、たくさんの事を学んだ。一連の体験をとおり、魚を「見て」「触れて」「感じて」、親子で「触れ合って」とても有意義な授業となった。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の海での釣り体験とブリの捌き方の実習という一連の活動をとおり、地元の海に対して理解と愛着を深めることができた。 ・親子活動であったため、親子の触れ合いの機会となり、また親も地域ボランティアとふれ合うことのできる良い機会となった。 ・地域ボランティアにとっては、自分の経験や知識を活かす場のなり、子どもから元気もらい、やりがいを感じられた。
課題等	自然体験のため、天候や潮の流れに左右される。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>参加者 親子 16人。</p> <p>地域ボランティアは、釣り体験指導1名・机上の授業1名、魚の捌き方指導1名・安全見守り2名。</p> <p>実習前に、地元の海岸で魚釣り体験と講習を行っている。</p>

市町名	吉田町
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



なぎなたの構え方の指導

活動名	総合的な学習の時間「なぎなた体験」
実施箇所名	吉田町立自彊小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>吉田町の「町技」となっている「なぎなた」の体験を通して、日本の武道の歴史に興味をもつとともに、日本の礼儀や作法について興味を広げることがを目的に、6年生の総合的な学習の時間で体験を実施した。</p> <p>吉田町体育協会なぎなた部の方に講師を依頼し、「なぎなた」の歴史や武道の礼儀についてお話をしていただいた。よりわかりやすい説明にするために、人数分資料を用意し、資料とお手本の両方を見せながら話をしていただいた。</p> <p>また、体験時間を十分に確保することで、児童全員がなぎなたに触れ、日本の礼儀や作法、なぎなたの型を体験できるようにした。</p>
活動の成果	<p>体験時間を確保したことで、全員がなぎなたに触れることができ、児童から「なぎなたって面白い」「礼の仕方にはいろいろあることがわかった」等の感想がでるなど、なぎなたや日本の礼儀、作法に興味を広げることができた。</p> <p>教員では教えることのできない内容を講師の方が教えてくださり、子ども達が意欲的に学習に取り組めた。</p>
課題等	<p>1回打合せを行ったが、1回だけでは講師の方の心配を拭いきることが難しい。しかし、何度も打合せを行うことは難しいため、授業の中で講師と教員とがどうかかわっていくかを明確にする必要がある。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師…吉田町体育協会なぎなた部3人 ・児童数…6年生62人

市町名	袋井市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



英語活動を行う児童

活動名	土曜日の学習支援（めだかの学校）
実施箇所名	浅羽南小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>浅羽南小学校の学区である浅羽東公民館を拠点に、地域の子供を地域で育てる学習支援の取り組みを本年度より始めた。</p> <p>浅羽南小学校の小学4年生から6年生で学習支援を希望する児童を対象として行っている。毎週土曜日の午前中に国語・算数の学習支援を中心に行っている。国語・算数に加え、隔週で英語活動も取り入れ、今後小学校における英語の教科化にも対応できるようにしている。</p> <p>平成28年度より始まった、土曜学習支援の取り組みであるため、年度当初の児童は6名であったが、年度途中からの希望者もあり、現在10名の児童が本活動に参加している。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数で基礎の習得を目的としているため、授業ではなかなか聞けないことも聞くことができる。 ・夏休みも活動を行っているため、夏休みの課題の相談にもものっていただけるため、夏休みだけ参加する児童もいる。 ・少人数での活動であるため、大人と児童の距離が近い。
課題等	参加者がもう少し増えると良いという指導者の方からの意見をいただく。対象学年が4年生から6年生ということで、習い事などで物理的に参加が不可能な児童いるため、今後は対象学年をどのようにしていくかが課題である。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	指導者として登録している地域の方は10名である。 開校（めだかの学校）時に新聞に取り上げられました。

市町名	湖西市
-----	-----

学校支援地域本部	○
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



ボランティアによる読み聞かせ

活動名	ボランティアによる読み聞かせ
実施箇所名	知波田小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	学校からの依頼で、地域コーディネーターが読み聞かせボランティアの募集を行い、事業実施前にはボランティアとの連絡調整や打ち合わせを行う。
活動の成果	学校、地域コーディネーター及びボランティアが活動のねらいを共有することにより、事業の質を高めることができた。
課題等	ボランティアの育成やボランティアの確保
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	